

第5回 市民会館の整備検討懇談会 質疑応答及び意見交換議事録

日時：令和2年7月28日（火）午後2時～午後5時

会場：名古屋市役所本庁舎5階 正庁

1 進行

- ・ 開会
- ・ 開催要綱の改正について
- ・ 議事
 - （1）【再掲】新たな劇場を目指す姿
 - （2）文化芸術の裾野拡大に向けた管理運営の検討
 - （3）新たな劇場がランドマーク、開かれた劇場となるために
- ・ その他
- ・ 閉会

2 「【再掲】新たな劇場を目指す姿」質疑応答及び意見交換（配布資料の説明終了後）

黒田座長

昨年度のレビューを兼ねたお話でしたがいかがでしょうか。新たな劇場を目指す姿について委員の方からご意見、ご質問ありますでしょうか。特にございませんでしょうか。お気づきの点がございましたら後からでも結構です。それでは議事（2）について事務局の方からご説明お願い致します。

3 「文化芸術の裾野拡大に向けた管理運営の検討」質疑応答及び意見交換（配布資料の説明終了後）

黒田座長

ご説明ありがとうございました。ご意見ある方はご発言をお願いします。かなり具体的な管理運営の話が出てまいりました。形式的にはオブザーバーですが、島崎委員は何かご意見ありますでしょうか。

島崎委員

芸術監督・プロデューサー制について、名古屋市文化振興事業団では私たちが勝手に事業を進めているわけではありません。委員の制度を実施していて、年間118人のさまざまな委員がいらっしゃいます。事業ごとに見ていただいたり、全体を俯瞰して見ていただいたり、委員さんを分けています。皆様のご意見を拝聴したいと思います。

黒田座長

ありがとうございます。事業団の管轄している施設については委員から評価をしてもらう体制

が整っているということですね。幅の広い話ですが、眞野委員、ご経験上なにかご意見はありますか。

眞野委員

KAAT 神奈川芸術劇場、神奈川県民ホール、神奈川県立音楽堂の組織図は複雑な様に見えて実はシンプルです。芸術監督はプログラムを主導しますが、それを強く尊重した上で、決定そのものは財団の常勤理事会が責任を持っています。私は県民ホールと KAAT の両方の館長です。両施設が一体的に運営されることを体現する職に就いています。県民ホールと KAAT は建てられた時期が違うため、それぞれの課の名前が異なっています。例えばこの図の県民ホールの上にある事業課と、KAAT の制作課はほぼ同様の業務内容を持っています。その上に副館長で音楽事業の責任者、あるいは副館長で総務の責任者などが置かれています。今回の懇談会では、私共の試みているシンプルな管理形態をお示しできればと思います。

先程、事業団の方がおっしゃっていましたが、KAAT は次年度、芸術監督やプロデューサーが変わります。今は芸術監督或いはそのアソシエイツなども一緒になってプログラムや作品を作るための仕組みを整理している途上です。

さて、名古屋から作品を発信するにあたりご理解いただきたいのは、作品は芸術家やその周辺の表現者達が作るもの。それと劇場経営とは時折相反することがありますが、その葛藤を乗り越えて作品を実現するという過程を、芸術監督を持っている施設・劇場はどこも引き受けているのだと私は理解しています。埼玉・東京・世田谷などの劇場でも同様な状態だと思います。その展開は各劇場、各芸術監督の個性によって様々だと思いますが、大まかに同様な事が行われていると思います。又、芸術監督システムは、大きな意味で劇場の経営に対して、的確な判断や提案を担う人物が財団内・組織内に複数名いることが求められていると思います。それが前提です。そのことを基本に据えて劇場を運営しております。

黒田座長

ありがとうございました。芸術監督の意義、運営の具体的な方法について教えていただきました。他の委員の方から何かありますでしょうか。西川委員どうぞ。

西川委員

私の隣の林委員より、実際の芸術監督制度を起用してみてもの課題などを共有していただきたいと思います。

林委員

愛知県芸術劇場では今年の4月1日より、勅使川原三郎氏を芸術監督としてお迎えしております。それに至るまで1年間、その他複数のプロデューサーと議論を重ねてラインナップを考えています。芸術監督と交代で6年間館長を務めた、日生劇場からいらした丹羽氏が企画アドバイザーとして関わっているのが現状です。私は黒船と呼んでいますが、これまでやってきたやり方は本当に良いのだろうか、これから先どこへ進んでいくべきなのかを考えさせられるので良いなと思っています。様々なことをやり直している段階ですので労力がかかりますが、新しい風、刺激

があります。専門性の高い人材を迎えるにあたって、「彼らを支える専門人材」も同時に必要です。複数の専門人材を束ねるための芸術監督という位置づけにもなります。相互に良い影響があると思っています。

眞野委員からもありましたが、芸術監督の役割やイメージがまだ統一できていないと思います。芸術監督に何を期待するのか、どこまで決められるのか、それらを一緒に議論しないと芸術監督の有無を判断できないと思います。どこまでの権限委任となるのかどうか、ということだと思います。

黒田座長

ありがとうございました。他の委員は何かありますでしょうか。指定管理者が事業団でない時は、芸術監督を置くのは難しいのではという意見がありましたが、事務局のご意見を伺いたいと思います。

事務局

資料の16ページに関連していると思います。座長からご指摘がありましたが、指定管理者制度について、名古屋市内の施設を見渡すと比較的大きなところであっても、事業団や民間がやられているという状況かと思います。先ほど、林委員から芸術監督を置くとしてもそれを支える人材も必要だという意見がありましたが、それを踏まえると、単に芸術監督を置けばよいという問題ではないのだと思います。やはり、「人材を支える人材の育成」にも波及してきます。現行の指定管理者制度とは異なる、新しい視点が必要なのだと考えております。あるべき姿について、皆様からご意見をいただきながら、ピラミッドの頂点に立つような劇場を作っていきたいと思っています。どういう運営の形が新しい劇場にふさわしい方法なのかについても考えていきたいと思っています。今回は、チャレンジ的な問題提起という位置づけであると考えています。

黒田座長

ありがとうございました。指定管理がこのまま継続すると難しい制約条件ですが、市民会館のあるべき姿について柔軟に議論していただくと有益かと思います。私の専門は公共経済に関してですが、指定管理者制度導入の目的は合理化ですが、比較的単純な管理業務が念頭にありました。指定管理者によってやり方や幅が大きく変わることは想定していませんでした。どこでもできるような管理を任せるとというのが最初の発想でしたが、近年は高度な運営の仕方が求められているので新しい市民会館にはなじまない可能性もあると考えます。他に委員の方ご意見ありますか。

永井委員

本日の資料を拝見しまして、前向きな事例が出ているように見受けられます。コロナ禍でこのような前向きな資料を他の行政ではあまり見たことがありませんので、ぜひ上手く実現できると良いなと思います。名古屋市民会館が作られるタイミングにおいて、ソフトとハードが同時に進んでいるのが特徴的だと思います。その中で、芸術監督やプロデューサーが専門家としてどうあるべきか、このタイミングで議論する必要があると思いました。尚且つ、愛知県芸術劇場との棲み分け、ピラミッド型の絵にもあるように他の劇場と連携しつつ、新しい市民会館がプロデュー

サー的な館として発信、取りまとめるための芸術的な価値判断ができる人がいないと困ると思いました。コロナ禍の劇場の在り方、劇場に行きたくても行けない人たち、リアルとリモートが併用の企画発信など、経済的な決断だけでなく芸術的側面とセットで決断できる人材が必要であると思います。本計画は良いタイミングなのではと思いました。

私は愛知県知立市文化会館にいまして、開館当初、芸術監督がいて私はプロデューサー、その他ボランティアがいました。その周りには芸術監督やボランティアなどの立場を理解しない市民がたくさんいて、毎年苦情を言われている状況でした。それから 20 年が経ち芸術監督のいる劇場がたくさんできました。コロナ禍では新しい価値観で劇場をつくる必要があると思います。厳しい現状を判断できる芸術監督、複数人のプロデューサー、それを支える強力な親のようなアドバイザー、というように一体的になると良いと思いました。制度を利用してサービスと共に運営していけるような状況ができたらいいなと思いました。

黒田座長

ありがとうございました。他のご発言のない方はどうでしょうか。松岡委員、創造活動について何かありますか。

松岡委員

愛知県芸術劇場が芸術監督を置き、勅使川原氏が革新的なものを作っていく、というのは県からできること。逆に市民会館は芸術監督というより、洋舞・日舞・オーケストラ・芝居などたくさんプロデューサーを置いて、愛知県芸術劇場とは分けた幅広い芸術を発信し、さらにそれを小劇場に割っていくというやり方がよいと考えます。コロナ禍で、文化小劇場が今週初めて舞台を作ることになりました。舞台に立ちたくてもお客様の数は限られているという状況。予算は無い。このような課題を各個人で考えるのではなく、市民会館が主となって色々なプロデューサーと相談しながらできると良いなと思います。

黒田座長

ありがとうございました。市民会館は幅広く対応できる人材、プロデューサーが求められるのではないかという意見でした。高北委員どうぞ。

高北委員

みなさんがおっしゃることは良く分かります。特に松岡さんがおっしゃっていることは実質に迫られている中でのご意見だと思います。色々問題はあっても、芸術監督という名称が相応しいかは別として、現場の延長線ではなくクリエイティブな人間が立つべきだと思います。外に向けて顔になっていく人、市民会館がハードとして素晴らしい施設になるだけではなく、そこから思想や目指している意思などの象徴性をつくっていく人が必要であると考えます。名古屋市美術館に欠けているのはその点。事務組織に徹底するのが館長の仕事ではない。象徴性としての存在がクリエイティブの場に必要。市の職員であるため専門性の高い発信が行われません。新しい市民会館をつくるのであれば、どういう人材を置くのか、という議論が先にあるのではないかと考えます。

山本委員

市民会館であるため、第一は市民のための施設だと思います。市民との風通しの良い方にプロデューサーや芸術監督になっていただけるとよいのではないかと考えます。東京の中学校で、校長室に生徒が自由に入れる所があるようですが、セキュリティの問題もありますが、芸術監督の部屋に市民が気軽に入り、演目などの意見を聞けるような場所があると良いと思います。名古屋にはどこにも負けないたくさんの人材があると思いますので、劇団、お笑い、ダンス、音楽など、これから輝く地元の成長型プロデューサーを置くと名古屋らしくなるのではと思います。

黒田座長

ありがとうございます。名フィルの山元委員、何かありますか。

山元委員

芸術監督のメリットデメリットがよく分からない状況ではあります。両面から考える必要があると思います。高北氏がおっしゃったように劇場の顔となる人が必要になってくると思います。愛知県芸術劇場との共存は不可欠です。それを考えたとき、愛知県芸術劇場の芸術監督等と仲良く話ができる顔となる人材が必要だと思います。松岡氏がおっしゃったように各部門のプロデューサーは必ず必要ですが、芸術監督の有無は議論を深めるべきだと思います。

黒田座長

ありがとうございます。愛知県芸術劇場との競争・共存、というパワーバランスの話だったと思います。遠藤委員、何かありますでしょうか。

遠藤委員

我々は、ほぼ100%貸館でやってきています。芸術性の有無というより、私たちは集客力のあ一般大衆が好むコンテンツを発信してきました。今までは満員になれば採算がとれるのでそれでよかった。個人的には、抽選や利用者の実態について貸館事業として14ページ④にあるように、利用実態に即したやり方で貸館業務ができるとよいと思います。皆さんが適正に気持ちよく使える会場取りになると良いです。愛知県芸術劇場との同一のキャパであるのならば、同じ抽選日で同じように取れると市民の方は使いやすいのではないかと思います。ホールとして市民のためにより使いやすいシステムを構築していただきたいです。市民会館は12か月前の月頭、愛知県芸術劇場は12か月前の20日前後が抽選日なのですが、芸術劇場が欲しくても市民会館の抽選日にもいかなければならない。このようなことはすごく不毛だと感じています。大きく名古屋市の会館を育てるために、シェイクハンドして、市民会館と愛知県芸術劇場が連携した予約システムになると良いと思います。

黒田座長

貸館と自主事業の仕分け、芸術監督がどこまでコミットするか。また、抽選日について、県内すべてを調整するのは難しいが、優先順位を調整していただきたいというご意見だったかと思います。

蛭川委員

様々なご意見ありがとうございます。名古屋市の現状についてお話させていただきたいと思います。指定管理者制度は原理原則に近いやり方となっています。新しい劇場に期待される役割を考えた時、今の指定管理者制度の運用のままで整合性が取れるものなのか事務局の悩みどころです。今までの名古屋市のやり方とは異なる方法とする場合、市民や議会のご納得が必要になります。この懇談会の中では、大きな役割を実現させるための新しい制度だということを説明できるよう、議論を重ねていきたいと考えます。我々もその達成のために何ができるか考えていきたいと思っております。新しい市民会館に期待される役割を考えた時、本懇談会の中で、芸術監督やプロデューサー等の位置づけを整理できるとよいと思います。

黒田座長

ありがとうございます。西川委員いかがでしょうか。

西川委員

広報宣伝・IT 活用について、ご意見申し上げたいと思います。ヨコハマアートナビは全てが網羅されていて便利だと思います。ニューヨークでもこのように網羅されているのは少ないです。名古屋文化振興事業団には友の会があり、加盟するとチラシなどを置いてくれるサービスがあり、活用していますが、チラシ文化のまま。友の会サイトにチラシ情報が網羅されているわけではありません。劇場というハードを考える中でソフトについても考える時代だと思います。全市的なというキーワードの中で、県と連携した広報・IT 活用について議論できる場を設けていただきたいです。

舞台人同士はライバルではなく、ライバルはスマホです。世の中の人々はスマホが離せなくなっている。特に若者はスマホで映画を観ている。この小さい画面で感動することはないと思います。スマホ配信に依存している若者をどのように劇場に連れてくるか。スマホに戦略が隠れていると思います。そのためには、IT を活用した広報戦略、仕組みが必要になると思います。

黒田座長

ありがとうございました。観光案内について、名古屋 HP は以前より分かりやすくなっていると思いますが、東京の場合は、都内全ての国際会議場やイベントの情報、会場の手配、サポート等が統合されています。名古屋の場合は地域としての統合ができていない。愛知県・名古屋市・豊橋市など横断的に情報が発信できると相乗効果が生まれると考えます。他の委員はご意見ありますか。

事務局

有機的連携はキーワードだと思っております。文化芸術の裾野拡大が象徴的であると個人的には考えております。そのために管理運営の検討が必要なのだと思います。ピラミッドの絵をイメージすると、ハード面での連携、情報に関しての連携についても本懇談会で議論していくべきなのだと考えています。

太下委員からのご意見をご紹介します。太下委員からは、専門的な人材を配置し

主体的に魅力ある事業を進めていくことが必須だというご意見をいただいております。新しく劇場が設備されるにあたり、現状、指定管理者の縛りはあるものの、新市民会館を中核として整備前から新しい文化振興が進展していくことが期待される、というご意見も頂戴しております。

黒田座長

ご紹介ありがとうございました。林委員、お願いします。

林委員

コロナ禍において、指定管理者制度そのものが崩壊している状態であると思っています。指定管理者制度を今後どのように変えたら裾野拡大を達成できるのか、その仕組みの中に施設が入ってくるという形になると良いと思いました。愛知県芸術劇場は20年近く名古屋市文化振興事業団と事業を共にやってきています。非常に層が厚く素晴らしい専門人材がいらっしゃるので、今ある有機的つながりを活かせばよいと考えます。

広報について、ここで議論されているのは情報の伝達のみ。より効果的な広報には情報の再編集が必要です。どのように情報に強弱をつけるかが重要になってきます。「強」をつけられた情報は問題ないですが、「弱」となった側のプロデューサーはそうはいかない。広報目線と作る側目線の違いによって調整が必要になってくる。情報のプラットフォームと同時に、広報組織の作り方も重要であると思います。小さい劇場は広報担当が1人ぐらいしかいない、営業も兼任しているパターンが多く、2年ぐらい経つと音沙汰がなくなるということをよく見てきています。そのようなことも考えて議論していきたいと思います。

黒田座長

ありがとうございました。他に、広報に関係して何かございますか。

永井委員

文化芸術の裾野拡大は重要なキーワードだと思います。一般的なイメージで、芸術監督と聞くと芸術性の高い作品を製作すること、それに対して貸館をメインとする会館、などとイメージするかと思います。名古屋市の市民会館においては、館長兼任＋プロデューサー、というイメージです。芸術監督は観客に受け入れられる芸術、大衆性、劇場のあるべき姿、自主企画・貸館との割合なども考えられるとよいと思います。高度な演出に対応できる劇場となると、注目度の高い芸術家が発信するというイメージですが、それよりも裾野拡大にも力を入れてくれるプロデューサーを選んでいただきたいと思います。眞野委員に質問なのですが、KAATは高度な演出にも対応できる劇場として建設されたと記憶しています。眞野委員は舞台監督という強みもあると感じていますが、技術者も含め、最低限必要な専門性などご意見を伺いたいです。

眞野委員

芸術監督と人材育成の問題とを絡めて話したいと思います。まず、芸術監督がいると人が育ちます。芸術監督が制作・広報などに色々な意志や考え方を提案する、疑問を投げかける、何故やりたいのか。芸術監督が訴求することを具体化に向けて動くことが人材育成につながります。は

じめから高度な人材がいたとしてもいきなり芸術監督を迎え入れられる組織ができるわけではない。芸術監督は劇場スタッフ全体と一体となって劇場の顔、劇場のかたちを作る事になりますが、それは常に変わっていくものだと思います。林委員も強く感じていると思いますが、芸術監督を迎えるということは日常的に軽度の緊張感の中で劇場運営をしていくことでもあります。

さて、貸館についてですが、私たちの理事会が選定した芸術監督は、先程触れられた貸館の条件も理解した上で就任することを条件にしています。県民ホールと音楽堂の2館は貸し館の利用率はゆうに8割を超えています。KAATは芸術監督のイメージが強いですが、5割程度は貸館です。しかし、丁寧に主催事業、作品を発信すれば劇場としての顔、輪郭が太い線で形成されていきます。自然と貸館にもその輪郭が反映されるでしょう。そのことを強化するために、これまでのような単純な貸館の抽選制度はやめるべきだと考えています。市民・県民の方々が喜んでくれるような利用調整を可能にする新たな貸館制度を構築すべきだと思っています。

永井委員

ありがとうございました。意識すべき人材についてよく分かりました。

黒田座長

他にご質問が無いようでしたら、一旦休憩を挟みたいと思います。

4「新たな劇場がランドマーク、開かれた劇場となるために」質疑応答及び意見交換

黒田座長

ご説明ありがとうございました。委員の方からご意見伺いたいと思います。木下委員に市の金山整備進捗について説明していただきます。

木下委員

本資料はランドマークやアプローチなど、街づくりの議論に踏み込んだものになっていると思います。金山の街づくりについて、住宅都市局で地区整備計画策定を進めており、本計画と歩調をあわせて進めていきます。アプローチや外観の議論に関しては重複してくると思っています。金山という街の位置づけをお話させていただきます。資料26、27ページに都市計画マスタープランについて記載されています。名古屋駅から金山の三角形が都心ゾーンとなっています。名駅から栄駅あたりの黄色いエリアは、都市機能が集約されているエリア。金山は商業施設の集中する都心部とは少し離れた独立した都市機能をもつエリアとして認識しています。今の金山は交通結節拠点という役割が大きく、街全体で言うと、乗換場所というのは必ずしもプラスに働くわけではありません。いかに街に染み出すか。市民会館建て替えは、金山エリアの再整備という位置づけだと理解しています。

金山のもうひとつの特徴として公共用地が多いという点です。北側にアスナル金山、少し離れた街区に市民会館、さらに古沢公園がありますが、全て名古屋市のもので、公共用地が多いということは市の意志によって自由にコントロールできる余地があるということです。どのような動線の扱いとしていくか検討しているという状態です。協議先が多く、まだ示せる状況にはない

ですが、市民会館整備に向けてどのような動線とするか、どのようなランドマーク性とするか、どのように金山を個性付けするかが、避けられない論点になってくると思います。常に連絡を取りながら進めていきたいと思っています。

黒田座長

ありがとうございました。去年も金山全体の再整備の中で市民会館の建替えを考えるということで、その辺の自由度はあるという前提で議論をしてきました。都市整備と調整を図りながら検討を進めたいと思います。ボストン美術館跡地の使い方はどうなるのでしょうか。

事務局

ボストン美術館跡地については、文化振興室の所管となっています。金山駅北側の市民会館、南側のボストン美術館について、金山の街づくりをイメージしながら住宅都市局と連携していきたいと考えています。ボストン美術館跡地利用については、活用事業者の公募を二度実施していますが、現状まだ契約成立はしておりません。2年近く経ってしまい、課題だと考えております。今年度は、今後の利活用調査を行っている状況です。その中で、今後の使い道について幅広く考えていくという方向性です。制約上、美術館用途であるため貸しオフィスとすることはできません。あくまでも博物館、美術館の用途として行政として主体的に活用し、民間事業者のお力を借りるというスキームを想定しております。しかし、一定の期間今の状況は続くと思います。暫定的に、月単位、フロア単位でお貸しするという柔軟な方法を考えています。条件に合うものであれば柔軟に借りていただこうと考えています。今後具体的に詳細を詰めて、公表させていただきたいと思っています。現状、使われていないという状態は課題であると認識し、その中で方策を考えていきたいと思っています。

黒田座長

金山駅の南側はANAのホテルしかないと言われている方もいますが、都市センターの立派な施設、美術館の跡地もあるので、市民会館と南北に結んだ視点で議論していきたいと思っています。ご意見・ご質問はありますでしょうか。

高北委員

ランドマークとしての劇場は多くの方が期待する点だと思います。金山駅周辺から見たランドマークであると同時に、市民会館を利用しない人が「あれはなんだろう」と思えることも、もうひとつのランドマークです。心の関わりを持てる劇場になるとよいと思います。利用者にとって「誇り」となることがランドマーク。その意味で考えると金山駅から少し遠いように思えます。駅から市民会館に向けてアクターズロードがあるとよいのではないのでしょうか。名フィルの演奏会など、上演プログラムと連携したワクワクした雰囲気や、人気のロックスターが利用するなど、金山駅と市民会館をつなぐ華のある計画があるとよいと思います。

黒田座長

ありがとうございます。西川委員なにかありますか。

西川委員

日本舞踊と共に文化観光の仕事もしております。街の景色について、名古屋駅周辺、栄周辺は栄えてきており、若者の街になってきています。一方で金山は少し忘れられているところがありますので、全市的に連携して、金山エリアは文化芸術を中心に賑わうと良いと思います。ボストン美術館など、文化芸術の街になりかけていたと思います。家電屋ばかりになるのは心外です。本山という街が名城線の工事により道路が封鎖され、若者の街から残骸の街になってしまいました。街から楽しそうな場所が消えてしまうのは悲しい。

ブロードウェイはディズニーの劇場ができたことで文化的な街が育ちました。ランドマークとして、有名な建築家に依頼するだけでなく、街全体を芸術の街に変えられるような気概を持っていきたいです。

黒田座長

本山駅については、名城線開通により人々が街を歩かなくなったことが衰退の一つの要因だと思います。知り合いのお店が随分撤退してしまいました。昔は名古屋の青山と呼ばれるほどお洒落な店もあったのですが、金山も人が喜んで歩けるスペースがあるとよいと思います。他にご意見ありますでしょうか。

山元委員

資料は毎回充実しているものになっていると思います。ミューザ川崎、すみだトリフォニーは良い事例です。ホールができたことで街のイメージが大きく変わりました。名古屋で新しいホールを作るのであれば、魅力ある劇場、魅力ある街にしていきたいと思います。金山駅の地下通路は侘しい雰囲気、文化の香りがしない。市民会館に入っても暗いイメージ、ワクワク感が全くない。乗換駅としてではなく、ここを目的として人が集まる街にしていきたいなと思います。川崎、墨田以上に、街の再編ができれば良いと思います。

山本委員

吉本も劇場を持っており、最寄り駅からの集客は課題になっています。30年前に建設された大阪のなんばグランド花月は奥まった場所にあり、人の呼び込みが課題になっていました。今はランドマークとなっていますが、それでも人を呼び込むため、劇場の色を出すために看板を設置したり芸人の着ぐるみを歩かせたりしていました。

3年前に名古屋に来た時、市民会館には何の色も無い、という印象を受けました。しかし、何も知らずに歩いている際、大津通りに歌舞伎役者の看板が設置されていたことがあり強く印象に残っています。それだけでも街を歩く人の興味を引きます。そのような小さい演出の工夫も必要です。地下道についても、華やかな色合いになるとよいです。また、公演に合わせて電飾で工夫するなど、チケット情報や看板があるとよい。吉本の落語家桂文珍は、「余韻を楽しむ」ことを重視しています。劇場から駅まで、街なかに帰るまでの余韻を楽しめる演出があるよといのではないのでしょうか。そこからまた文化が生まれてくるのではないかと思います。

黒田座長

ありがとうございます。劇場単体だけでなく、周辺のアクセスなど検討の余地はあるのだと思います。どなたかご意見ありますでしょうか。

木下委員

色々なご意見をありがとうございます。金山エリアは住民もいて、古い居酒屋が残っており、飲み屋街が増えています。そのような雰囲気の中で、果たして、文化芸術を全面的に出し、芸術の森とし、市民にとってハードルの高いレベルとするのが良いのか、若者が集まるサブカル場所とするのか、これまでの金山のイメージとの芸術文化とのギャップも念頭に入れながら検討する必要があります。イメージがありましたらご教示いただきたいです。

黒田座長

ありがとうございます。それに対するご意見はありますでしょうか。

高北委員

下町賑わいがベースにあると思います。かつての金山と比べると華やかにはなっていますが、乗換、というイメージがあります。飲み屋街が点在しているのもひとつの魅力です。市民会館ができるとお洒落なお店が増えるとは思いますが、若い世代が金山に集まっているのも事実です。若者が気軽に集まる場所になるとよいと思います。敷居の高い場所とするのは違うと思います。市民会館を利用しなくてもその街の匂いがあると思います。下町の雰囲気は金山がもつ財産だと考えます。

黒田座長

ありがとうございます。市民会館の西側は区画整理をしていないため、あのような飲み屋が集積していると思います。ターミナルになっているため、金曜の夜はサラリーマンが多くあのエリアで飲み、それぞれ帰宅するというのも多いようです。ビジネスホテルやレストランが増えているのも事実だと思いますが、敷居の高い市民会館というより、そのような雰囲気と融合したものになると面白いのではと思います。何かご意見ありますか。

島崎委員

街のランドマーク、シンボルになる市民会館として、私たちも何か関われたらよいと思っています。その中でないものねだりを2点、発言させていただきたいと思います。1点目は、若い世代が気軽に入れるフリースペースが必要になると考えます。ガラス張りでも良いと思います。2点目はデザイン性と機能性。利用する立場として機能的かどうかは問題になってきます。エントランスが狭いとお客様が滞留してしまいます。また、ロビーがバリアフリーであること、モニターがついていること、楽屋の広さ、など利用しやすい条件・環境が整うとたくさんの方が集まると思います。

黒田座長

ありがとうございました。松岡委員いかがでしょうか。

松岡委員

金山周辺は汚い、暗いイメージがあり、アスナル金山も当初は盛り上がっていましたが、今はあまり盛り上がっていない状況です。ボストン美術館もこのような状況。下町情緒もほしい。ここは若者が集まる、ここは芸術にあふれている、ここはいっぱい飲める、など劇場だけでなく周辺環境も変えながら動線づくりができるとよいと思います。単に奇抜な建物を建てるのではなく、誰でも入りやすい雰囲気、劇場を利用しなくても気軽に飲める場があると良いと思います。高度なことというより、色々なことを市民会館ではやっていただきたいです。劇場の中でより多くのお客様に足を運んでいただくためにロビーでバレエの小物などを販売することもあります。愛知県芸術劇場では試食ができませんが、市民会館では柔軟に色々なことができると人が集まりやすいと思います。

事務局

資料にも神奈川芸術劇場の写真を参考として掲載しておりますが、眞野委員からワクワク感をつくる方策についてヒントなどをいただければと思います。そのあとに太下委員のご意見を紹介させていただきます。

眞野委員

KAAT は開館から 10 年、試行錯誤でやってきました。どなたも足を運びやすくを旨としています。劇場の名前を覚えていただけるまでに 5 年程もかかりました。横浜駅でタクシーに乗り、「神奈川芸術劇場までお願いします」と告げ、運転手さんに知られるまで 5 年程はかかりました。CI の確立を強く意識していましたが、街の雰囲気とあまりにもかけ離れている建物にはなじみ難いと思います。開館当時は KAAT の両脇はまだ更地でした。KAAT 周辺は何の色もないビジネスエリアで、ネクタイを締めた人以外は見ない、という街でした。ところが 10 年ぐらいすると雰囲気が変わり、お洒落なお店が増えてきました。飲む場所、食べる所も変わりました。

本計画の敷地は平米数でどれぐらいなのでしょう。2 万 8000 m²、敷地 1 万 4000 m²は非常に広いですね。容積率は 600%あるのです。その場合、さらに高い建物を建てることも可能なのでしょう。緑や広場などがあると素敵だと思います。劇場側が私たちはこんなこともできるんですよと発信することができると、それは周囲の市街地に滲んでいきます。まずは四周に薄暗い裏通りをできる限り作らない事。10 年も経つと、駅から雰囲気のあるお店が並ぶというイメージができることが期待できますね。どれぐらいの規模のものができるのでしょうか。本計画は敷地も広く様々な事を企画することができると思います。KAAT 周辺は開館から 10 年経ち色々変わりましたが、その先の 10 年は自然と周りに人が寄って来てくれることを期待します。

木下委員

このエリアは 500～800%の容積率が指定されています。物理的に市民会館の上に積むことは可能ですが、何を積むのか、それが市民会館に相応しいのか、様々なことを踏まえて慎重に議論

する必要があります。

眞野委員

外国の劇場はパブやカフェが付き物であり、日本の劇場も飲食のみならず本屋さんなどの専門店に入っていただき知的な雰囲気を醸成している事例はよくあります。そういったスペースが指定管理者に裁量を委ねる目的内使用で整備されると、運営側も全体のデザインがやり易いと思います。目的外使用の場所になってしまうと劇場運営者の思う通りにいかないのでは何かと難しいと思います。色々なことを踏まえ検討していただくと良いと思います。

事務局

太下委員からも、ランドマークを形成するにあたり、劇場単体だけでなく街全体の議論が必要だという意見がありました。厳しい財政状況の中での整備はハードルが高い、民間活力の導入を踏まえた整備についても必要だというご意見をいただいています。資産の活用について、今年度は財政局との関連性を深め、街づくりを見据えた新しい劇場の整備が必要だと考えています。上に積むことがふさわしいかどうか議論すべきだと思います。それが相応しいのか等も踏まえながら整備手法を検討していきたいと思っています。街づくりを考えて整備を考えてきたいと思っています。

黒田座長

ありがとうございます。そろそろ時間ですが、どなたかご意見ございますか。

遠藤委員

街の象徴、というのはもちろんですが、機能性のある劇場が良いと思います。搬出入時に周辺住民から騒音の苦情があり、その度に職員の方が頭を下げている状況を何度も目の当たりにしてきました。そのような状況にならないようにしていただきたい。24時間搬出入を前提として、キャパにあった滞留場所を設置していただきたいです。3ホールのキャパの収容面積に収まるような設計になると主催者としてありがたいと思います。機能性ベースのデザインとしていただきたいです。その中で空間の遊びがあるとよいと思います。ランドマークとしては駅から目の前にあるとお客様の気持ちは高揚すると思います。

黒田座長

ありがとうございます。他にご発言ありますでしょうか。

林委員

管理運営体制について、新しい劇場全体を捉えて考えていますが、組織は1つではあるものの、大・中・第3のホール、それぞれの運営姿勢は異なると思います。大ホールはプロユース、中ホールはユーザーフレンドリーの施設になると思います。それらの前提を決めた上で、外見イメージや組織体制を議論する必要があると考えます。高級ホテルなのか、老舗旅館なのか、心温まる民宿なのかで、印象は変わってくると思います。仕様発注ではなく性能発注でハードづくりができると良いと思います。22ページあたりの第三者評価について、あまり触れられていませんが、

次回の議論で良いですか。

黒田座長

評価について、本日は深い意見はなかったと思います。宿題としてよいでしょうか。事業団との兼ね合いなどで評価の仕方は変わってくると思います。また、3つのホールで運営に独自性を持たせるべきというご意見だったと思います。事務局で具体的な運営組織検討の際に考えていただきたいと思います。芸術監督との問題もあるかと思います。

概ね予定していた時間になりましたので本日の会議は終了といたします。

事務局

貴重なご意見をありがとうございました。次回以降の検討材料にさせていただきたいと思います。今後の検討スケジュールをご説明させていただきます。次回第6回懇談会につきましては、10月19日（月）の午前といたします。第7回は11月16日（月）の午前といたします。時間につきましては改めてご連絡させていただきます。その後、いただいたご意見を市でとりまとめ、パブリックコメントとして市民意見を募集します。その上で3月に基本構想をとりまとめてまいります。

また、個別の行政計画として、文化行政の基本的方針などを掲げた名古屋市文化振興計画がございます。その計画期間も今年度で満了しますので、来年度から向こう5年間にかけての新しい計画を策定してまいります。つきましては、名古屋市文化振興計画策定検討会議を立ち上げました。今後の文化行政の考え方、新しい市民会館との考え方は切っても切れない関係ですので、本計画との連動についても言及がありました。次回懇談会では、文化振興計画の検討内容をお示しながら管理運営のやり方、街づくりについて議論していただく予定です。

以上をもちまして、第5回整備検討懇談会を終了します。本日は誠にありがとうございました。

以上